

令和7年度実績報告書

令和8年3月31日
北海道大学アイヌ共生推進本部

1. はじめに

アイヌ共生推進本部（以下「本部」という。）は、アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するため、本学における施策を企画立案し、学内外のアイヌ民族とその他の本学構成員の共生を実現するために令和4年4月に設置された。

令和7年度は、令和6年度に引き続き、「学生への教育」「教職員への研修」「文化振興」「歴史的経緯の語り継ぎ」「レイシャル・ハラスメント対策」の5施策について、アイヌ民族に関する知見を有する本学の教員等から構成されるアイヌ施策検討委員会を中心に、以下に掲げる事業を行った。

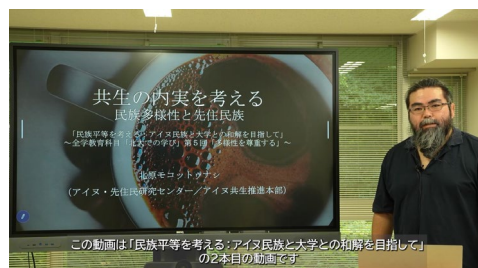
2. 各種施策

(1) 学生への教育

本学にはアイヌ民族にルーツを持つ学生・教職員が所属しており、大学構成員全体がアイヌ民族に関する理解を深めることで、これらの学生・教職員が安心して勉学や教育研究に専念できる環境を整備することができる。また、道外や国外からも多数の学生を受け入れている本学において、全ての学生がアイヌ民族について学ぶ機会を設けることは、差別のない民族共生社会の実現にも貢献すると考えられる。令和7年度は、以下に掲げる3事業を行った。

① 学部教育への参画

令和5年度学部入学者から1年次の必修科目となった全学教育科目「導入科目（北大での学び）」の中で、アイヌ民族に関する講義を行った。講義は多様性をテーマとした枠の中で実施し、「アイヌ民族と大学の和解を目指して」というトピックのなかで、「アイヌ史の舞台としての札幌キャンパスの歴史」や、「民族多様性と先住民族」に関する内容を取り上げた。本科目には、令和8年度以降も継続して参画する予定である。



(講義の様子)

② 大学院教育への参画

令和6年度から実施の「大学院共通授業科目：社会実装プログラム群（北大大学院での学び）」の中で、アイヌ民族に関する講義を行った。講義は北大の歴史と多様性をテーマとした枠の中で実施し、「民族平等を考える」というトピックのなかで、「アイヌ民族との和解と共生に向けた本学の取組」や、「アイヌ史の舞台としての札幌キャンパスの歴史」、「安心な学内環境実現へ向けての留意点」に関する内容を取り上げた。本科目には、令和8年度以降も継続して参画する予定である。



(講義の様子)

③ 北図書館におけるアイヌ関連書籍の展示

5月20日から6月27日までの間、附属図書館北図書館との合同企画として、北図書館東棟2階の展示コーナーにおいて、アイヌ関連書籍を展示する「本から学ぶアイヌ民族のこぼれ、暮らし、歴史、交流 カンピヌカラアン ローイタク、ウレシッパ、ウパツクマ、ネブキ、ウコアプカシー」を実施した。

展示書籍はアイヌ施策検討委員会の委員が選び、計39冊を閲覧に供した。



(展示の様子)

(2) 教職員への研修

本学は、令和元年度に笠原総長職務代理（当時）が発表した声明において、研修等を通じてアイヌ民族に関する教職員の理解を深めることを表明しており、令和元年度から毎年、研修を実施している。令和3年度以降は、研修の対象者を、非正規職員も

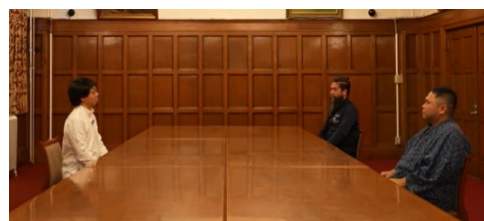
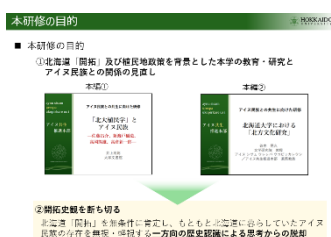
含めた全教職員（約 8,000 人）に拡大している。

令和 7 年度における研修は、下記の 8 編をオンデマンド配信した。このうち⑧は、令和 7 年度に新たに開講し、当該研修はこれまでの研修と比較しても複雑な内容である内容であるため、導入部分で研修の目的を明確に示したり、動画の中盤と最後に総括コメントを挿入することで、受講者が研修内容を正しく理解できるよう配慮した。

- ① 共生社会に向けた変革をめざして
(アイヌ共生推進本部 山本文彦本部長)
- ② サクシュコトニ川のほitoriから考える札幌キャンパスの歴史
(文学研究院 谷本晃久教授)
- ③ 国のアイヌ政策の動向 (アイヌ・先住民研究センター 落合研一准教授)
- ④ 安心な学内環境のために
(アイヌ・先住民研究センター 北原モコットウナシ教授)
- ⑤ 差別や偏見のないキャンパスの実現にむけた取組
(アイヌ共生推進本部 岡田真弓本部長補佐)
- ⑥ マイノリティに開かれた環境とは
(北原モコットウナシ教授)
- ⑦ 民族的アイデンティティと大学環境
(アイヌ・先住民研究センター 山崎幸治センター長/同センター元技術補佐員)
- ⑧ 北海道大学における植民学・北方文化研究の歴史的経緯について
(谷本晃久教授、北原モコットウナシ教授、大学文書館 井上高聡准教授、
岡田真弓本部長補佐)

研修期間は 1 月 13 日から 2 月 13 日までであり、これまでの視聴者を含めると、令和 7 年度在籍者のうち 2,904 名が受講した。これは、令和 6 年度受講者の 2,494 名に比して 16% の増加であった。また、受講後のアンケートとして 96 件の意見が寄せられた。研修動画及び資料は、研修期間後も視聴できるように学内限定サイトに掲載し、すべての研修動画について英語字幕版を用意した。

更に、令和 5 年度から新規採用された正規職員が対象の「北海道大学初任職員オンデマンド研修（北大学）」のカリキュラムにおいてアイヌ民族に関する研修を必修化し、引き続き令和 7 年度も実施した。



(研修の様子)

(3) 文化振興

キャンパス内でアイヌ文化に親しむ機会が確保されていることは、アイヌ民族にルーツを持つ学内構成員にとっては安心な環境の確保につながる。また、それ以外の構成員にとっても民族文化への理解がより深まることが期待される。令和7年度は、以下に掲げる2事業を行った。

① アイヌ料理フェアの開催

北海道大学生生活協同組合との共催で、学内の8つの食堂において、アイヌ料理を提供するフェア「イペアン ロック！」を開催した。

アイヌ民族の食文化は、周囲の文化との交流から得た品々によって新たなアレンジを加えながら育まれてきたものであり、メニュー開発にあたっては、伝統料理に詳しいアイヌ民族の意見をもとに、アイヌ文化に興味のある本学の学生有志も参加した試食会を行っている。また、メニューの説明を記載したポスターの英語版も作成し、アイヌ民族の食文化が幅広い構成員に伝わるための工夫を行った。

さらに令和7年度は、アイヌ料理を体験することに留まらず、様々な面からアイヌ文化を考える機会に発展させることができるよう、アイヌの狩猟と文化伝承を記録したドキュメンタリー映画の上映会をアイヌ料理フェアに併せて行った。アイヌ料理フェアでは、上映した映画の主人公であるアイヌの方が狩猟で捕獲した食材を利用しており、アイヌの食文化を起点に、今日のアイヌ文化伝承にも触れることができる機会となった。

[開催日] 令和7年7月22日(火)～7月25日(金)

[提供料理] ・ユクカム(鹿肉)のオハウ
・ラタシケブ(和え物)
・エゾ鹿スパイシーカレー



オハウ



ラタシケブ



エゾ鹿スパイシーカレー

② アイヌ文化振興モニュメントの作成

学内におけるアイヌ民族の存在感を高めるとともに、本学構成員がアイヌ文化を自然に受容する環境を創出し、それによってアイヌ文化が承認された(そこに

あることが自然に感じられる) 環境を実現するため、学内に設置するためのモニユメントの作成に着手している。令和7年度は、アイヌ工芸家のもとで本学の創基150周年に併せて完成できるよう着実に制作が進められた。



(制作中のモニユメント)

(4) 歴史的経緯の語り継ぎ

本学が建つ土地は、先住民族であるアイヌが長きにわたり、暮らしと生業を営んでいた場所である。アイヌ民族がこの地で長い歴史と文化的なつながりを持ってきたことに深く敬意を表し、こうした歴史的経緯を語り継いでいくため「北海道大学所在地の先住民族に対する敬意の表明」(以下、「敬意の表明」という。)を公表した。また、公表に伴い、札幌キャンパス構内に、この敬意の表明を示す日本語・アイヌ語(石狩川方言)・英語を併記した銘板を設置した。ウェブページでの公表に加えて、銘板を設置することで、本学の構成員のみならず、国内外からの多くの来訪者が、本学のキャンパスのあるこの土地とアイヌ民族の歴史と今日を認識し、理解を深める契機となることが期待される。



銘板設置場所(正門近く)



銘板(3言語で記載)

(5) レイシャル・ハラスメント対策

本学ではアイヌ民族を含む様々な民族的な背景を持つ学生や教職員が勉学や研究、

職務に励んでおり、こうした学生・教職員が、差別や偏見に遭うことなく安心して活動できる環境を整備するため、民族的属性を理由とする差別的言動であるレイシャル・ハラスメント、特にアイヌ民族に対する差別的言動を防止するための情報（ガイドライン「レイシャル・ハラスメントを防止するために」）をコンパクトにまとめたリーフレットについて、新規学部入学生全員を対象にオンラインで配布した。また、主に留学生を対象に配布するため、当該リーフレットの英語版を作成した。

3. アイヌ民族との対話

各施策の企画立案・実施に活かすため、学外のアイヌにルーツを持つ方と計1回、対話を行った。対話のテーマは、「民族共生の実現に向けた大学の役割」であった。

4. おわりに

令和7年度においては、上記のとおり「学生への教育」「教職員への研修」「文化振興」「歴史的経緯の語り継ぎ」「レイシャル・ハラスメント対策」のそれぞれに一定の進捗が見られた。特に、「北海道大学所在地の先住民族に対する敬意の表明」は、大学が所在する土地とアイヌ民族との具体的な歴史的かかわりに言及した取組は、国内の大学においても先駆的であり、創基150年を迎える本学にとっても重要な成果だったといえる。

令和8年度においては、これらの実績を引き継ぎ、研修内容の充実、文化振興に関する具体的施策の推進等について、引き続き事業を進めていく。